

[成果情報名] 春作マルチ栽培でチップ用原料栽培に適するジャガイモ「西海31号」の種いも

[要約] 春作マルチ栽培で、チップ用原料に適する大きさを確保できるジャガイモ「西海31号」の種いもは、秋作産温蔵種いもである。この種いもを用いると一期作産種いも使用時に比べ、加工に適する大きさのいもの収量および割合が高い。

[キーワード] ジャガイモ、西海31号、春作マルチ栽培、種いも

[担当] 総合農林試験場・愛野馬鈴薯支場・育種栽培科

[連絡先] 電話0957-36-0043

[区分] いも類

[分類] 指導

[背景・ねらい]

ジャガイモ「西海31号」は赤皮、赤肉系統で抗酸化性の機能性成分（ポリフェノール）を含み、油加工（チップ）適性が高いなど、これまでの品種にない特徴を持っており、今後、チップ用としても期待できる。

国産原料は2～6月に不足傾向であるため、チップメーカーは西南暖地の春作での生産拡大を望んでいる。

メーカーのチップ用原料の規格は60～340gで、でん粉価の高いことが求められている。しかし、西南暖地での春作マルチ栽培では、小さいもので、でん粉価が低いなどの問題がある。このため、チップ用原料の規格を満たす栽培技術を確立する必要がある。

昭和50年代以降育成品種に対して、春作マルチ栽培で来歴が異なる種いも（秋作産、一期作産）を用いた試験を行っており、栽培に適する種いもは品種によって異なることがわかっている。このため、ジャガイモ「西海31号」についても同様な検討が必要である。

そこで、本品種のチップ用原料栽培に適する種いもを選定する。

[成果の内容・特徴]

1. チップ用原料に適する50g（M級）以上の上いも重は、秋作産温蔵種いも使用が、一期作産種いも使用より多く、その割合も高い（表1、図1）。
2. 秋作産温蔵種いも使用のでん粉価は、一期産種いもよりやや低いが、チップ用としては十分な値である（表1）。

[成果の活用と留意点]

1. チップ用原料生産を計画している春作マルチ栽培の地域に適応できる。
2. 秋作産温蔵種いもは、秋作収穫後、22℃で4週間貯蔵したものである。

[具体的データ]

表1 西海31号の種いもの来歴の違いによる春作マルチ栽培における試験成績

来歴	試験年次	出芽期 (月/日)	茎数 (本/株)	上いもの 数 (個/株)	上いもの重の 階級別重量割合(%)					上いもの 重 (kg/a)	上いもの 対標比 (%)	M以上 比率 (%)	M以上 収量 (kg/a)	平均 1個重 (g)	でん 粉価 (%)
					3L	2L	L	M	S						
秋作産	H17	3/16	2.3	6.6	1	20	37	33	9	344	100	91	313	85	13.7
温蔵	H18	3/14	2.1	4.7	0	19	42	30	9	242	100	91	220	84	13.7
平均		3/15	2.2	5.7	1	20	39	32	9	293	100	91	267	84	13.7
一期作産	H17	3/13	4.1	7.8	0	12	36	39	12	356	104	88	312	75	14.4
	H18	2/26	5.7	4.9	0	2	9	47	42	161	66	58	93	53	13.8
平均		3/5	4.9	6.3	0	7	23	43	27	258	85	73	203	64	14.1

注1)階級:3L以上:220g以上、2L:220~140g、L:140~90g、M:90~50g、S:50~30g

2)上いもの重には、緑化いも、そうか病いもが含まれる。

3)対標比は秋作産温蔵の上いもの重を100として比較している。

4)平成18年産の北海道産種いものは3月上旬の降霜による被害が大きく、減収が顕著であった。

5)耕種概要

①植付日: H17:1/31、H18:1/25

②収穫日: H17:5/12、H18:5/9

③栽植密度:615株/a(畦幅65cm×株間25cm)

④施肥量(kg/10a):H17;N:12.6, P₂O₅:11.2, K₂O:11.2

H18;N:18.9, P₂O₅:16.8, K₂O:16.8

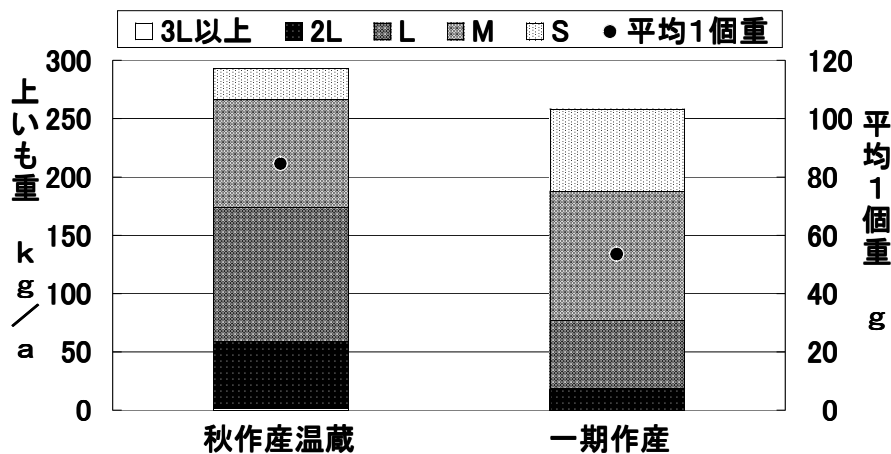


図1 種いもの種類の違いによる上いもの重と平均1個重の差異 (平成17,18年の平均値)

[その他]

研究課題名: バレイショ「アイユタカ」等の安定生産技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 2005~2007年度

研究担当者: 森一幸、田宮誠司、草原典夫